

11・2日比谷野音へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2014年10月28日
No.242

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
<http://www.zengakuren.jp/>

10・21国際反戦デー感想①

●全学連副委員長・澤田光司(東北大)

侵略戦争をとめていく力は学生・労働者の決起にこそある、そのことを確信できるデモだったと思う。それは法政大学当局の私たちに対する態度を見ても明らかだ。田中優子総長は反戦を訴える一方で、自分の大学で反戦を訴え学問のあり方を真剣に問う学生に対しては弾圧を加える。デモを行う学生を過激派だと弾圧することによって他の学生が戦争反対の行動へと決起することを阻んでいる法政大学のあり方は許せないし、戦争を止める現実性をもっているとも思えない。戦争を止めていくのは実際にこの社会を動かし、戦場に動員されていく労働者・学生である。その意味で今回のデモは学生が決起し、労働者と団結し戦争を止めていく、そのことの現実性をつかむことができるデモだったと思う。

次は11・2労働者集会だ。学生と労働者は団結し、階級の怒りを糾合し、安倍政権打倒を実現しよう。

●東北大学生自治会委員長・青野弘明

10・21国際反戦デー闘争は労働者と学生の団結をより強固なものとし、大高揚と圧倒的注目の中で大成功しました。7・1情勢、戦争情勢の中で「反戦」を掲げて労・学が連帯した行動はますます求められている。



10/21法大門前で訴える武田君

それは戦争を止めるのは労働者・学生の歴史的任務だからだ。10・21国際反戦デーの成功の流れを引継いで、11・2集会1万結集にのぼり詰めよう! 10・21の一環として闘われた法大闘争は、文化連盟と全学連の圧倒的前進を勝ち取り、法大当局の一層の破産と支配の崩壊を明確化させました。総長・田中優子は文化連盟の闘いによって、「リベラル」の皮を引き剥がされ、恥知らずにも安倍への賞賛を全面化するところにまで追い詰められた。(田中が「エール」を送った安倍の女性閣僚はすでに2人打倒された!) いかにも似非リベラルの存在をなしに国家体制が成り立たないかということを様々と見せつけている。法大闘争は学生運動史類を見ない程の弾圧を受けてなお、新たな仲間の結集を勝ち取り続けている。それは現在の武田文化連盟委員長に代表

11・2全国労働者総決起集会

世界の労働者と団結し、戦争と民営化の道を許すな!

今こそ闘う労働組合を全国の職場に!

11月2日(日) 正午 東京・日比谷野外音楽堂



【呼びかけ】全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部、全国金属機械労働組合港合同、国鉄千葉動力車労働組合

されるように、弾圧に絶対屈さない強力な人格を生み出し続けてきたからだ！「武田君、赤嶺君のように闘おう！」という全学連大会で確認されたスローガンを、ぼく自身も含めて達成した時に、大学は絶対変わると確信しています。また国会前と渋谷デモは、めちゃくちゃ楽しかったです！「反戦」の旗を掲げることが、今以上に求められている時はないと思う。戦争を止めることが出来るのは労働者・学生の闘いだけだが、戦争を許してしまうのもそう。10・21のような闘いをどんどん全国でも東北大でもやっていきたいと思えます。10月26日の今日、福島県知事選挙が行われ、11月には沖縄県知事選挙が行われるが、もう体制内的あり方では、人々の怒りを抑え込むことはできない。それに結局、彼らは本当に自分の立場性を問われた時には国家の側へいとも簡単に転落する。仲井真もそう、法大の田中優子もそう。本当に戦争を止める、原発再稼働を止めることが出来るのは、繰り返すが労働者・学生の力だけだ。しかし、まだまだ力不足なのは厳しい現状です。11・2への労働者の1万人結集が切に求められています。11月集会の1万人結集を勝ち取ったときに、戦争を止められる！

資本主義をぶっ倒せる！東北大でも多くの学生が「戦争への危機」を感じています。東北大学生自治会は反戦闘争の先頭にぶっ立っていきます！全ての学生は11・2の大成功に向けてがんばろう！

●広島大・A

10・21国際反戦デーをととして、法政大学、国会周辺、渋谷でのデモ、労働者の集会に関わってみて思ったことは、エネルギーがすごく出てるなということです。

今の時代の中で自分にできることを探して立ち上がっているのだと思います。

1人1人が考えて、エネルギーを出していけば世の中を変えることができると感じられる日でした。



●福島大・樋口正太郎

10・21闘争は、国際反戦デーの復権に向けた大きな一歩となりました。中でも一番最後に行われた渋谷デモは、全国各地から労働者・学生合わせて320人が結集。大きな注目を集めながら渋谷の街を練り歩きました。

集团的自衛権行使容認閣議決定、アメリカによるイラク・シリア空爆、それに対する安倍政権の支持表明。こうした情勢の中で国際反戦デーを蘇らせることは、戦争を阻止し安倍政権を打倒していく上でとても重要な意味を持っていると思います。もともと国際反戦デーは、日本の労働組合がベトナム反戦ゼネストを提起し世界に呼びかけたのが始まりでした。そしてこれは、労働者には戦争を止める力があることを示しました。今もう一度、労働者・学生が団結して戦争を止める時が来ています。10・21の高揚を引き継ぎ、今度は11・2労働者総決起集会へと全力で攻めのぼりたいと思います。

福島大では10月16日、戦争反対を訴えるキャンパス集会が行われました。多くの福大生が注目する中で集会は成功、当局はほとんど手出しができない状態でした。集会の前後福大生からは、「自分も戦争には反対だ」「10・21に興味がある」といった声が上がっていました。福大からも少しずつ学生の決起が始まっています。10・16、そして10.21は戦争政策への怒りを安倍政権に叩きつける行動となりました。次は11・2で闘う労働者との合流・団結を勝ち取りたいと思います。

【当面する行動方針】

●武田雄飛丸君「無期停学処分」撤回裁判・第7回弁論

11月5日(水) 13時半～ 東京地裁705号法廷にて

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第3回公判

11月7日(金) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて

※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

